

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	新価値創造モデルを活用したコンテンツ開発および地域PR推進事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人松本市アルプス山岳郷 0263-94-2221
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり / (関連区分) (7) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	8,208,000 円 (うち支援金: 5,000,000 円)

事業内容

STEP.1: 現状基礎調査

●エリアに來ている観光客実態調査

アルプス山岳郷各エリア内の観光事業者および一般訪問者に対しアンケート調査。直近1年間で宿泊した観光客の性年代・居住地・移動手段・目的等をできる限り詳しく記入してもらい、データ化し、地域の課題を整理。

・調査対象/アルプス山岳郷エリア内の観光事業者および一般訪問者・対象サンプル数/588サンプル・アンケート調査(紙・WEBフォーム)

●デスクリサーチ

・生活者調査データベースやインターネット等デスクリサーチを行い、生活者モチベーションを分析する。

●現地視察・課題ヒアリング

ワークショップに向け、地域資源の視察と地域内関係者からの課題にヒアリングを実施し、現状の課題をより深掘して整理する。

●現状分析

現状基礎調査とデスクリサーチ、現地視察の結果を基に、仮説を立て、課題を検証していく。

STEP.2 : コンセプト・コンテンツ策定

●関係者によるミニワークショップ

各エリアの中から選定した関係者と外部のモチベーションを語る層にてミニワークショップを開催し、事前の現状実態調査・デスクリサーチ等で出た仮説を基に事業コンセプトおよびコンテンツ立案。

●コンセプトボード作成

ワークショップで立案した6案のコンテンツごとに、調査用のストーリーボードとしてまとめていく。

STEP.3 : 評価・検証

●コンテンツ評価調査(ネット)

・調査目的: 首都圏・中部圏・関西圏在住の層を対象に需要調査を行い、事業の必要性を分析する。作成した6つのコンセプトボードを提示して、参加意向等の評価を得る。・対象者(各ターゲット): 首都圏・中部圏・関西圏在住の20~60代・男女・サンプル数: 1,050人・調査手法: ネット調査(Webアンケート調査)

●検討・絞り込み

ネットでのコンセプト評価調査結果を基に、コンセプトを選定し、検証。

STEP.4: 精緻化・戦略策定

●コンテンツ精緻化

・絞り込んだコンテンツを実現可能な内容にて精緻化。

・ストーリー化し、具現化していくためのベースを作る。

●事業シミュレーション・PR戦略策定

・ネット調査により導きだされた必要性をベースに5か年計画を策定する。

・数年後の単年度黒字化を目標に事業シミュレーションを行う。

・絞り込んだコンテンツストーリーに沿ってPR戦略を立案

●WEBサイトでの報告

・アルプス山岳郷のWEBサイトで、調査結果を掲載し、広く情報共有するとともに今後の活動についても啓蒙していく

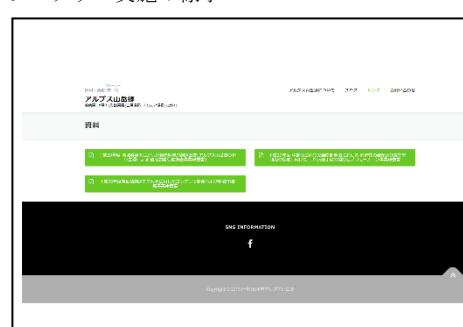
ミニワークショップの様子



WEBサイトへの掲載



プログラム実施の様子



事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- コンセプトに基づいたプログラム案組成数
⇒目標年度H30 6件
- 地域関係者のワークショップへの参加人数
⇒行政関係者3名・地域関係者15名・首都圏関係者4名・オブザーバー3名・ファシリテーター3名・スタッフ2名 計30名

【目標・ねらい】

- ① 現状課題把握調査により、地域の潜在的な課題をあぶり出し、共有していく。
- ② ワークショップの開催により、山岳郷の理事だけでなく、地域住民や行政関係者と建設的な議論の場を持つことで、具体的事業のアイデアを共創するとともに事業への理解向上を推進する。
- ③ 需要調査により事業コンセプトを絞り込むことで、ターゲットや狙いを具体化し、より効果の見込める事業戦略に落とし込む。

※自己評価【B】

【理由】

現状基礎調査、需要調査等、課題を客観的に分析しながら戦略を策定できたこと。
ワークショップへの住民参加により、建設的な議論の場となり事業理解を得られたこと。
需要調査に基づいた戦略により、今後の活動の大きな指針となったこと。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回策定したプログラム案およびPR戦略に基づいて事業を推進する

- 快眠プログラム・アートツーリズムの具体化
- WEBサイトを中心としたプロモーションの実施

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある